

10 立教生とアルバイト

立教の学生には、恵まれた家庭の子が多いことは事実であるが、それでも、学生部にアルバイトの求職カードを提出しているものが約三百名ある。これらは全くつてのない学生たちで、縁故をたよってアルバイトをしている学生の数はこれより数倍多い。

しかし、これらのアルバイト学生を分析してみると、大部分は書籍、学用品の購入に必要であるとか、所属している部の会費を出すためとかで、生活費まで賄うという深刻なものには案外少ない。学生部に登録しているものについていえば、その約一〇%——三〇名内外である。なかには授業料を親から渡されてツイ使ってしまったから、などという存続者もないではないが、しかし、だからといって、アルバイトの荷役を軽視してよいということにはならない。家から八千円もの支送りを受けている学生でさえ、満足に書籍や学用品を購入することができず、まして快適な学生生活を送り得ないという現状だからである。

立教のアルバイト対策は二本建である。一つは生活費まで捻出する学生のためのものであり、一つは学費の不足を補う学生のためのものである。前者としては、学内の消化、池袋公共職業安定所との連絡、各教授との連絡などが主なるものである。学内でアルバイト学生を入れている機関は、学院の夜警十二名、事業部書籍部（学内にある教科書、参考書、一般図書、雑誌、学用品などの売店）の店員

四名、図書館一名である。安定所とは常に連絡をもっているわけではないが、突発的な事件、例えば家が急に破産して、就学不可能な学生が出た場合などに連絡してお世話願っている。教授との連絡とは、立教が家族的な学校であって、在学中は勿論、卒業してO・Bになっても、教授との関係が密接なものが多いので、そうしたO・Bと各教授を通じて連絡し、O・Bの会社などでアルバイト学生を消化していただくことである。場合によっては、O・Bがその家庭に学生をひきとって面倒を見てくれることもある。以上のような次第で、この方は大休良好な成績を挙げている。

ところが後者の方はなかなか問題である。特に、一、二年生（一般教養課程にある学生）はクラスごと固定教室を設け、出席を重視している関係上、授業に差支えない午後のアルバイトを幹旋しなければならぬ。学生部では、小川（穂治）学生部長が陣頭に立って、求人開拓に邁進しているが、最近では潜在失業者群の頭在化につれて、ますます苦しくなってきた。ただ、いままでの実績で、立教の学生さんに来てもらったら、実によくやってくれた、今後もぜひ来てもらいたい」という会社も少なくないで一息ついている。

アルバイトの種別は、何といっても簡単な事務、軽労働が多い。その他、家庭教師、通訳、店員などがこれにつき、変わったものでは野球の審判、キャプレーのバンドなどがある。学生部での幹旋は月約十件、延人員一〇〇——三〇〇名ぐらいである。賃金は平均二百二一・三〇円。

二年ばかり前のことだ。ある学生がニコニコして芝生でしゃべっていた。

「昨日浅草へ行ったのサ、ホラあの大福餅喰い競争だよ。ウンと喰うことなら自信があるからナ。」

でも会場へ入った時はドキドキしたヨ。何しろ相当な大箱二十だからナ。四角いお盆にのせて布が
 かけてあるんだ。喰い切れなかったら莫大な金を払うんだヨ。そうだな、三十人ぐらいいいたかな。
 用意ドン、サット布をとる、喰い始める。みんな早いんだ。何しろ自信のある奴ばかりだろうから
 ネ。え？ ウウ、途中で水は飲んでもいいんだ、だけどそれだけ時間がかかるからナ。十個、十五
 個となると流石にバテましたヨ。バテないのは、僕と隣りの爺さんだけサ。爺さん強いんだ。あと
 個と聞いたら、わざわざ、栃木県から出てきたんだそうさ。十九目はチャットむこうが早かったヨ、
 さあ大変だ、ことが千円か二千円かの境目だ、どうしても負けられないネ、え？ ウン、一等が
 二千円、二等が千円の賞金さ。夢中でつめこんで二十目をくわえたのはこっちが早かった。サット
 手を挙げて勝負あり、とうとう二千円もらったヨ。え？ アア、何ともないよ、胃も腸も至極快調
 サ。ときどきあんなことがあれば、僕アもうアルバイトなんかしなくてもいいんだがナ。」
 聞いていた友達連中みな、フーンという表情で散っていった。

11 立教生と住居

一口に衣・食・住といわれる通り、住居は人間生活において必要かくべからざるものであること
 は今更喋々するまでもない。そして、一般社会人と同様に、現在の学生にとっては、住居は大きな
 問題なのである。

立教の学生の出身地を調べてみると、東京都が約五〇%、神奈川県、埼玉、茨城、千葉等の近接県
 の合計が約二〇%、合せて七〇%の学生が大体自宅から通学している(入学簿参照)。これらの自宅通
 学者はまず問題ないが、残りの約三〇%、即ち約千五百名の学生の住居は一応問題である。もっとも
 もこのうち、親戚知人関係を入学の当初から頼って上京しているものが約半数なので、約七百名が
 下宿していることになる。この七百名がそれぞれ満足して安住しているなら問題ないが、実際は
 そう簡単に片づかない。そこで学生の住居の対策が、また学生部の大きな仕事として浮び上って
 くる。

1 學寮について

立教にはもと東京、西寮の立派な寮があった。その建物は現在でも構内食堂をはさんで存在して
 いるが、学校の規模が拡大されるにつれて、経済学部と文学部の研究室にかわってしまった。しか